

アンケート結果

阪神南地域（8名）

1. ワークショップに参加された感想や、ワークショップの運営などについて今後、改善すべきと思われる点があればお書きください。
 - ・短時間ですべてのまとめができたこと。参加してよかった。
 - ・町からの指名で参加しました。ワークショップについて学んだことが老人大学や地域の中で活かしてゆくことに喜んでいきます。
 - ・健康とか文化といった分野ごとにグループをわけて具体的課題（あらかじめ拾いあげておく）について検証していく手順の方が意見を出しやすかったです。
 - ・部会によってテーマの検証をするのかと思った。（健康福祉部会なら、そこから震災を考えていく。）参加者の震災への思い等を聞きたかった。
 - ・ワークショップで発言中に何度もマイクが入るので、他の人の意見が聞き取りにくい。早くしろといわんばかりの進行でせからしいワークショップだと思った。初めてワークショップに参加する人にとってあまりいい雰囲気とは思わない。グループごとにパーティションを設置するなど会場にもう少し工夫がほしい。
 - ・みなさんとともに意見を出し合いましたので、楽しく参加できました。
 - ・5、6名での作業の方がよいと思います。

2. 復興10年で被災地ができたこと、できなかったことや将来に生かすべきことについて、ワークショップでは十分出せなかった意見等があればお書きください。
 - ・健康福祉の視点から、身障者やお年寄り、赤ちゃんをかかえている家族は、どうあるべきか。東浦町では、上記の方々の生きがいに「ふれあいサロン」を各地域で開いてコミュニケーションをはかっている。
 - ・震災はそれまでのまちづくり、人づくりが問われてくる。人にやさしいまちづくりの中には障害を持つ人たちも入っている。保健・福祉部会の中には高齢者はあっても、障害者はない。少数者である障害を持つ人たちが町の中で生きていける環境にあるかどうか、すべての人にとって暮らしやすい町がどうかにつながっているのではないかと。震災に強いまちづくりの大きなヒントになると思う。
 - ・他にも同じような学校もありますが、震源地の淡路高校は、避難地となり学校は休校の上、当時の3年生になる生徒達は人生において思い出の修学旅行をしておりません。休校の間も一生懸命ボランティアをしていました。いつかできなかった修学旅行がかなえられたらと願います。
 - ・なし。

3. その他、復興10年総括検証・提言事業に関することや震災への思い、震災復興についてのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。
 - ・震災後、地滑りのあった個所や海岸あたりの地価が下がり、売れない。地価の問題も解決しなければ本当の復興につながらないのでは。
 - ・復興10年の取り組みと成果をとりまとめタイムカプセルにして次の世代に送るようにはどうですか。

- ・将来、起こるかどうかわかりませんが、情報の提供を充分にしてほしい。記録の保存もよろしく。
- ・古い昔ながらの木造家屋が悪くなり、まちの景観が落ち着かなくなったので、今、残っている家屋などは今後、大切に守ってください。
- ・復興事業を早くしてもらいたい。

阪神北地域（23名）

- 1．ワークショップに参加された感想や、ワークショップの運営などについて今後、改善すべきと思われる点があればお書きください。
 - ・今回のワークショップで会場の皆様の声が、メモ書きに反映されて、大変よかったと思う。参画と協働、まさにその通り。時間的余裕を持って討議してほしい。
 - ・学生さん方の運営・協力がスムーズでよかった。話し合いのテーマ説明が不足。
 - ・参加して大変よかった。
 - ・assistant達的能力が不足!!事前にもっと勉強しておくべき!!
 - ・初めてだったのでわからない。
 - ・今回はどのように人選されたのか。各グループともにすばらしいメンバーであった。
 - ・面白かった。
 - ・時間が少し短すぎる感じを持ちました。
 - ・設問に対する意見とは、異なりますが、様々な主旨の違うイベント・ワークショップに参加される人がほとんどいつも同じ顔ぶれ（このような活動に参加しなくても自主的に活動している人が多い）なので、まとまった結果が本当に市民の意見、考えを反映しているか疑問が残る。
 - ・ワークショップで出た意見をどのように活かしていけるのか？
 - ・スピーディーな作業でスムーズにいった。10年前が改めて思い出され、体験したことの強さを感じた。会として楽しくできた。
 - ・時間もほぼ定刻通りに進みよかったですと思います。あえていうとすれば、プロジェクターの表示がもう少し大きく表示できればよかった気はします。
 - ・各地域に細分化し、幅広い意見をまとめて、当ワークショップに参加するのがベターだったのでは！
 - ・十分に活かしてほしい。
 - ・参加してみなさんの意見が聞いてよかった。大変勉強になりました。
 - ・スクリーンの字が小さいのでわかりにくい。
 - ・事前に方法の連絡はあったが、主旨の説明を作業の確認のためにもあったほうがよいと思った。
 - ・今回は初めて参加させていただきました。
 - ・参加者の方々の震災に対する様々な思いを聞かせてもらって、共通の意見が多かったと思った。
 - ・会場の都合もあると思いますが、10～13時は時間が中途半端だと感じました。
 - ・少ない時間で、多くの意見があり、グループに分ける作業が大変であった。
 - ・時間が少なかったのが残念。

- 2．復興10年で被災地ができたこと、できなかったことや将来に生かすべきことについて、ワークショップでは十分出せなかった意見等があればお書きください。
 - ・震災被災前1年前より、火災対策のため防災組織を立ち上げていたことにより、震災後、復興がいち早く完成した。（宝塚市売布地区）
 - ・地域の協力体制づくりが多数の人に述べられているが、避難所での人々が、事態の起こった時

点では、みんなが協力しているように見えたが、数日経ったくらいから人々のエゴが出だした。救援物資でも我先に取りってしまうことがないように。

- ・様々な復興支援が県からの助成で行われたが、すべての助成金は半額補助であった。ボランティアの知恵と力を集めての事業であるので、せめて2 / 3 補助にすべきでないか。
- ・別になし。
- ・救援活動、ボランティア活動をスムーズに行えるように、危機管理システムの充実が必要。
- ・フェニックス事業を通じて地域で理解されたと思っていたのに意外だったと、現時点ではくやしきく思っている。
- ・行政側だけがコントロールするのではなく住民と対等な立場で事業、etcを進めていくのが better と思います。
- ・ボランティアをしたいという思い、物資の提供が自己満足？にとどまっているのではないかという反省がある。客観的にそのような点についての評価を知りたい。
- ・私事ですが、去年、大病をしました。突然だったことで私には震災が来たのと同じです。立ち上がるために多くの方の応援をいただきました。仲間の大切さ、人の大切さを痛感しています。
- ・交番の話。県警、県行政の回答が明確でない。
- ・地域によって温度差があるのでそれを踏まえた。活動を展開していかなければならないと思う。
- ・いざとなった時にそれだけ活動ができるか。
- ・将来、来るであろう東南海地震に備えて一層の啓蒙運動を公民で行うべきと考える。
- ・一人暮らしのお年寄りへの心のケアの必要性。
- ・防災、防犯組織の確立をおこなう。情報の伝達が一番大事 末端にいかにして伝えるかを考えるべき。

3 . その他、復興10年総括検証・提言事業に関することや震災への思い、震災復興についてのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・恐怖を持つのではなく、常に防災意識を持つ近隣小グループによる組織づくりが大切。我々はこの組織づくりにより、県第1号再開発ビルがスムーズに完成したことを自負に思う。
- ・幸いにもわが家は、コンクリート造であったがため、被害は僅少であり、近くの小学校に朝早くからお手伝いに行きました。行政の対応は、救援物資が届けられたが、私たちでお釜と湯をわかし暖め皆様にお配りした。300~400人の被災者にパン等物資を配ったが、その場にリーダーシップを取る人がおられ、まことにうまくいきました。テントの中でも皆様が家族のように味噌汁等食事を取り、廃材を切断して、暖をとってもらった。最後まで残った人に母子家庭の人が家はつぶれ、住む家がない、この地域に住みたいが資金がないと途方に暮れていた人がおられたのが気がかった。
- ・どのような形で集められた参加者かわからないが、検証・提言事業にどの程度深みあるものになるかどうか不明である。復興住宅や、仮設住宅の現況、震災当時の様々な反省など、深く、幅広い見地から検証する必要があるのではないか。積極的にボランティアに参加できた人たちだけの意見ではよいものにならない。
- ・ワークショップで各グループのまとめたことを文書にて報告してほしい。
- ・心のケアの問題が大きくなっているように思えました。

- ・急には考えられない。
- ・震災時に一刻の感情で対応しない。
- ・十年一昔といいますけれど、震災のことは忘れていています。次に来る南海地震に向かって、考えていかなければならないと思う。
- ・防災へ向かって、人的、物的被害を着実に減少させていくべきだと思います。
- ・命の大切さを大きく感じたこと、生きる力（復興力）の強さ、またいざという時の地域の助け合いがマンザラでもない、捨てたものではないと思った。
- ・山手住宅へのバス運行。売布神北駅前再開発で駅前が整備された。
- ・震災時に活動していた方と久しぶりに会うことができ、前向きな意見発表ができてよかった。
- ・命の大切さを伝え続けてほしいと思います。被災者としての立場から、もっと備えもしっかりしていきたいと思いました。
- ・仮設住宅が遠隔地にでき入居者の利用がつかみにくいところがあった。一時的なものなので被災地にいるほうが地力（民力）の復旧には有効ではなかったかと思う。
- ・震災時、震災後に自分で何もできなかったのではないかと反省している。
- ・ご苦労様でした。

阪神南地域（18名）

- 1．ワークショップに参加された感想や、ワークショップの運営などについて今後、改善すべきと思われる点があればお書きください。
 - ・ボランティア精神だけでは継続はできない。でも大切なのは心なので難しいところだと思います。
 - ・先生、学生の指導力がよく、まとまったと思う。
 - ・もう少し拾いスペースで。
 - ・非常によい運営だと思います。行政が開催する会は、どうしても高齢者が多いので、今回のように学生さんが入ることで、フレッシュな気持ちで参加できた。
 - ・各班10人では少ない、20人くらいにしてはどうか。人選も広く各界より選ぶこと。
 - ・アナログとハイテクを見事に融合し、なんだかすばらしいものができた気がする。が、表面的すぎる気がする。
 - ・特になし。時間が長かったように思う。
 - ・学生のキビキビした態度に好感が持てた。
 - ・初めてなので特にありません。
 - ・震災体験者同士の集まりだったので、お互いに共通理解がすぐにできたことがよかった。
 - ・初めてワークショップというやり方を体験しましたが、大変気軽に意見をいうことができました。運営された先生、学生さんに感謝します。
 - ・意見を考える時間があまり取れなかったので、事前に考えをまとめてくればよかったと思う。（予習をさせる）本日まとめたものに追加意見などを提起するしくみ（復習のしくみ）があればよいのでは？（まとめるのが大変？）
 - ・初めての参加で何かわからず、皆様の一生懸命さについていくのがやっとでした。
 - ・3時間の時間が短く感じた。
 - ・事前によく準備されていたので、みんなの意見がスムーズに出すことができた。PCで情報が早くまとめられて共有化（全員で）することができてよかった。
 - ・地域の方々のいろいろな意見を聞くことができ、とてもよいワークショップになったと思います。学生のみなさん、ご苦労様でした。
 - ・お世話をしてくれた学生の方には感謝しています。もう少し時間にゆとりがあればと思いました。
 - ・さらに多くの人が必要か。

- 2．復興10年で被災地ができたこと、できなかったことや将来に生かすべきことについて、ワークショップでは十分出せなかった意見等があればお書きください。
 - ・ハード面ではすごい発展だと思います。
 - ・二重の借り入れ、経済低迷により家庭、企業は、まだまだ苦しんでいるので、震災による既存借り入れに対する支援を継続、打ち切った施策の復活をしてほしい。
 - ・十分出しました。
 - ・特定疾患患者に対する医療、食事対応の充実ができていない。（私の子供ですが、インスリン依存

型糖尿病でインスリンの確保、食事食材の確保（常に必要があるため）

- ・国民全員に防災教育の徹底を図るべき。
- ・特になし。
- ・自分なりの意見は発表できた。
- ・やはり被災地以外の、市・町の応援体制が充分でなかったこと。
- ・他のグループからも意見として出ていましたが、自助、公助、共助の役割分担、しくみづくりがますます重要であると感じました。
- ・全体に再建されたが、人の心のケアもこれからのところもあるように思います。
- ・被害程度の温度差が防災活動の温度差になる。

例：室内の家具が倒れなかった家庭と倒れた家庭では恐怖感や家具の固定に差が出る。

- ・行政が主導する復興事業に住民も参画し、ともに計画段階からつくっていくシステムが大切である。上からの指示、トップダウンからボトムアップになるよう、徐々に変わってきたと思う。

3．その他、復興10年総括検証・提言事業に関することや震災への思い、震災復興についてのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・さすがmind in JAPANだと思います。他の国ではこれだけの復興は無理だと思います。
- ・よい検証で記録にしてください。
- ・けっして、祭りだけではためであり、次世代及び世界へ発信できるものにしてほしい。
- ・官民の一体感をさらに強くし、悲しい思いを風化させないようにいい伝えていく。自助努力ができる人間形成（教育）が必要。
- ・＜1/17＞を未来永劫、伝承の必要あり。やはり戦災と震災との担い方が違うので。
- ・県の復興10年の事業が、充実したものの、全国、全世界へ発信できる取り組みとなるように期待しています。
- ・被災した地域住民に限らず、ボランティアなどで支援をした人の意見なども取り混ぜて、何が起こり、何が必要とされ、今後どうすれば、よいのか？を定期的に検証・発信するしくみづくりが必要では？今回の震災に限らず、いくつかの災害体験者をミックスすることの必要。
- ・10年経つと忘れかけたところがあり、新しい人たち、若い人たちにまた思い出せる風化しないように残してほしいです。
- ・いろいろなところで復興事業、支援が行われているが、情報がまだ一部の人にしか伝わっていないのが、残念。県民の意識、啓発をもっと進める。
- ・実際に、被災した者にとって、一生忘れることのできない体験をし、大切な家族を丑内、この思いを風化しないよう、これからも次の世代にいい伝えられたらと思います。

神戸地域（13名）

- 1．ワークショップに参加された感想や、ワークショップの運営などについて今後、改善すべきと思われる点があればお書きください。
 - ・初めての参加でしたが、会の流れが速くて慣れてきた頃に終わった。最後のまとめが終わった時点で、全員に確認、質問の時間がなかったように思う。
 - ・「市民の意見を代表する」ということから考えれば、参加メンバーは統計的な手法で選んだ方がよいのではないのでしょうか。
 - ・このテーマをこの手法でやるには時間不足。
 - ・ワークショップに関する技術進歩には、目を見はるものがありました。しかし、毎回、同じことを感じるのですが、意見を汲み上げる手取り早い方法であっても、参加者の交流にはなりませんね。同じメンバーで3回くらいにわけてプログラムを組めば、もっと面白い中身の濃いものができるように思います。
 - ・即座に集約結果の出るシステムに、時代の進展の早さに改めて遅れを知った。
 - ・よかったです。学生さんも、みなさんの意見を出すためによくがんばっておられたし、ソフトもよかったです、流れもよかったです。時間が延びたのは、ソフトが少し、この形式に合わなかったためと思いましたので、改善提案をお渡ししとききました。
 - ・要望は特にありません。多々、参考になる点がありました。ありがとうございました。
 - ・震災を経験された多くの方のいろいろな意見を聞くことができ、よかった。
 - ・全面復興を心から願って、少しでも多くの意見を聞きたかった。もう少し広い会場、少人数を希望します。
 - ・自分の思いと他の人の思いはどの点が違うかを知りたいと思い参加しました。ワークショップの運営がわからない人があるので、初めに具体的な説明が必要（ポストイットの使い方）。
 - ・災害に備えて、また被災地として、今回のようなワークショップはとても意義がある。みんなが熱心に討議した。
 - ・自分の強い思いがグループの人にわかってもらえないのか、長々と話をする人がいて進行をさまたげている場合がある。
- 2．復興10年で被災地ができたこと、できなかったことや将来に生かすべきことについて、ワークショップでは十分出せなかった意見等があればお書きください。
 - ・大切だと思われる意見に関しては、少々の説明があってもいいと思う。十分に意見が出せる雰囲気ではなかった。
 - ・復興のまちづくりでは、「安全・安心」が大きな目標になっていたように思いますが、「共生」や「多様性」への配慮が少なくなると個人エゴや地域エゴといったところへ、また逆戻りするような気がします。いずれにしても「安全・安心」は、大切だが、あまり前向きな標語とは思えない。そろそろ見直す時ではないか。
 - ・震災の原因、地球温暖化の取り組みを強調すべきだった。身障者への声かけ運動の活動不足を身に沁みて感じました。
 - ・もっと住民主体となった...というか、住民の参加できる活動ができれば、もっといいと思いま

す。例として、金沢の美術館創立に、ものすごく住民たちが関わって、いい形ができていたのをHPで見ました。ほんとにすばらしく、ぜひ神戸、兵庫もそうになってほしいので、よかったら、ごらんいただけたら幸いです。

- ・災害用としてそれぞれ安全帽、スニーカー、ラジオ付、ブザー付の大型電器を用意することを教育すること。在校生の児童、生徒用に安全帽を用意する。
- ・震災復興基金があることにより活動できた。今後は、人材育成のための資金が必要である。
- ・元の住所に戻れない人たちが生きていく間に希望をかなえてあげたい。主婦でも有意義に生きる活動に参加し続けたい。
- ・少数意見も大切に思う。
- ・同じようなことでも個人差・地域が多く反対意見が多い。

3. その他、復興10年総括検証・提言事業に関することや震災への思い、震災復興についてのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・大切な意見もたくさん出た。「震災時に弱者には特別な対応が重要だ」という項目に「震災で障害者となった弱者…」はひとくくりにならないと思う。別問題だと思う。
- ・近所の人、友達の中で「人と防災未来センター」を見学した人が少ない。これを見学することが防災の出発点になるような気がする。
- ・検証することは重要であるが、それが目標ではないという自覚をみんなが共有しなければならない。検証から導き出された新しい地域社会像に向けてプログラムをつくるスタートにならないと検証の意味はない。
- ・罹災3度、その都度、復興の短縮に力強さを感じました。
- ・今回、いろいろとメモをとることが多すぎて、すぐに浮かびませんが、私は、“ありがとう神戸”という郵便や地域で全国にお礼をいう活動が好きでした。まだまだお礼を返しきれていないと思います。これからも、全国に対し、その気持ちを持ち続け、返せる組織をつくってください。
- ・いろいろな人に十分に理解してもらえる場を今後も続けて行ってほしい。
- ・児童・生徒の心のケアのための復興担当教師を文部省の予算でなくした。まだ何年か必要と思う。
- ・災害に備えて平素から、救急、消火などの訓練が必要である。

明石・三木地域（13名）

1. ワークショップに参加された感想や、ワークショップの運営などについて今後、改善すべきと思われる点があればお書きください。
 - ・全体の進行について、最後まできりりとした中だるみもない、それかといって暗い雰囲気でない、笑顔の中で真剣なまなざしで時間に追われたりしましたが、2部からは進めることが理解でき作業ができました。講師、学生さんまでチームワークのよさに乗せられました。
 - ・ワークショップの進行はすばらしかった。学生さんの協力には驚きました。時間をかけて話し合ってみたい。
 - ・短時間でうまくまとめられたのには感心しました。
 - ・初めての体験で大変とまどった。三木市の方と交流できてよかった。
 - ・2部の将来のところは、その前にワンステップが必要ではなかったかと思われる。
 - ・問題処理等にスピード感があってよかったと思う。
 - ・参加させていただき、よい勉強になり新たに考えさせられました。
 - ・本日、参加してよかった。
 - ・初めての体験だったが、いいことだと思うので、がんばってほしい。
 - ・ワークショップに参加するのは、初めてですが、有意義に参加できました。
 - ・初めてのことですごくとまどったが、こんな方法で意見をとることができるんですね。
 - ・復興について、年2回程度、このような会合を継続すべき。
 - ・初めての参加で、いろいろな意見を聞かせていただきましたが、進め方はとてもよかった。うまくスムーズに運営されていて感心しました。
 - ・時間の取り方がよかった。
 - ・進め方はよかったが、部屋が少し狭いようです。
 - ・非常によかったと思います。いろいろな方法もありますが、わかりやすく、また早くまとめられてすばらしい。
 - ・スペースを広げたほうがよい。内容が多すぎるので絞ったほうがよい。
 - ・ワークショップはこれで2回目です。前回よりも（前は福祉関係）今回のほうがスタッフの皆様のリダーシップがすばらしく、短時間ですばらしい提案が出て大変良かったです。学生のみなさんは感じがよく、すばらしい若者たちに出逢えてよかった。
 - ・楽しく参加できた。今後も時間があれば参加したい。（具体的な説明がやや乏しい。）
 - ・見ず知らずの人とわいわいやるのが楽しかった。
 - ・部屋が狭かった。
 - ・初めての経験で和やかにでき、良かったです。
 - ・初めての参加で運営方法としては、楽しくとても有意義でした。
 - ・ステップ1、2であるが、細かく分けて、詳細な議論を行ってもよいのでは。
 - ・班内の意見のとりまとめの時間が不足するため、時間配分を考えてほしい。
 - ・各種団体、各年代別により、もう少し人数を集めてすること。
 - ・立木氏の進行がそつなく進み、学生さんの協力のもと、有意義な時間でした。
 - ・参加された方は、積極的なご意見をお持ちの方ばかりで、学習が楽しかったです。

- ・部屋が狭い。学生リーダーはよかった。
- ・内容が盛りだくさんで、すごく忙しかった。
- ・3時間は、長いようで短いですね。時間はこれくらいが適当だと思います。
- ・時間がやや長い。
- ・初めてこのような席に出席しましたので、わかりづらく、困りました。思い出して文章化することは難しい。

2. 復興10年で被災地ができたこと、できなかったことや将来に生かすべきことについて、ワークショップでは十分出せなかった意見等があればお書きください。

- ・10年を振り返って、自分がその時期に何をやったか、何に取り組んだかと考えたが、1人では何もできなくて地域の人との連携で進めてきたことを振り返るだけでなく、将来へこれからの世代の方や実体験のない方にも伝えていくことが大事だということもこのワークショップで学び、その資料が手元にあり、復習できることに感服した。
- ・ボランティアに参加したこと、していること、継続が大事だということ。
- ・人の流出を復興作業の一環として防止してほしい。
- ・核家族のきずなをどう考えるべきか。
- ・環境問題を取り入れた意見が出てこなかった。
- ・別になし。
- ・身近な人と人とのかわり、もう一度、昔の隣保活動に近い人間関係が生まれるように努力したい。
- ・カードにも記入しましたが、ボランティア活動をより進めていきたい。
- ・人の心が非常に温かく感じられるようになった。この気持ちがいままで続けられますように。
- ・高齢化に伴い、高齢者、(経済的な)弱者に対する行政のサービスが、まだまだできていないと思います。独居老人の死(何日も経たないと死がわからない)など、心寂しいことが聞こえてまいります。行政はもっと有形無形へも心配りが大切だと思います。
- ・自分たちで地域性を取り入れたまちなみ景観を生かすアドバイザーを育成する。
- ・とくになし。
- ・防災に対する意識をいままで持続させるためにどうすればよいか。時の流れとともに風化していく。
- ・ライフラインの大切さを充実させてほしい。行政とボランティアの一体化。
- ・風化する市民、県民への啓発が必要である。自分の生活以外は、関心が少ないため、もっとPRすべきである。
- ・自治体は財政難で大変でしょうが、助成金の継続をお願いします。
- ・世代間交流ができればよかったと思います。
- ・災害時のボランティア拠点をつくることを常に考えておくことが大事である。
- ・多くのボランティア団体ができ、10年を期に助成金等が少なくなると思います。ぜひともこの点を考えていただきたいです。

3. その他、復興10年総括検証・提言事業に関することや震災への思い、震災復興についてのご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

- ・ちょっと外れるかもしれませんがある報道番組で次のような災害の時、責任者の一人としてあなたはどちらを選びますかということでした。

病院の事務方で、自分の病院で診察が終わり、患者の状態から他の病院へ転院してもらうように患者さんにも了解を得て、ロビーで椅子に掛け、待ってもらっていました。そこへカメラマン（報道）が椅子に掛けている患者さんの写真を撮り始めた。病院事務方のあなたは
どうする。 撮影を許す 撮影させない

避難者が300人います。しかし、食料の調達は200人分です。100人分が不足しています。ここでのまとめ役のあなたは 配布する 配布しない

被災者用仮設住宅の資材調達ができました。これで9割の方に割り当てることになります。しかし、建設用地の確保ができていません。そこで公立学校の運動場を使いたいと要請があったことが判明した。その時、あなたは 運動場に建設 運動場に建設反対

3つの事例を紹介いたしました。震災についての様々な研修に幅広く事例を出し、予備知識としてみなさんと会話を進めてはと思い、的違いかもわかりませんが記載しました。

- ・もう震災がないことを祈ります。
- ・戦後の教育に疑問を持っている。体験者（震災だけでなく、戦災、人災も含め）、生存者が少なくなっているので、記録を残してほしい。
- ・災害を風化させず、次世代へ伝承できればと思います。
- ・消防団活動の体験を忘れないようにしたい。
- ・少子化、高齢化の中、解決する問題があるように思われる。
- ・地震に対する予知、予報、正確な情報および啓発をお願いします。
- ・震災時のそなえをしておかなければと改めて考えさせられました。
- ・震災は体験したが、もっと地域に根強く発信してほしい。
- ・本年は、震災復興10周年。より盛り上げていきたい。
- ・県民参加のこのような試みは、進めるべきである。
- ・特になし。
- ・行政の素早い支援活動組織ができているのか？特に独居老人への。
- ・三木市は、老朽木造家屋が多いが、大規模地震が心配。
- ・震災が風化しないように、体験を通して、伝えていきたい。地域を通じて心の通ったまちづくり、人づくりを心がけていきたい。
- ・メモリアルウォークは今後、続けてほしい事業です。
- ・災害を受けた者は、動くことができない。自分のこと、身内のことでいっぱい。落ち着かないと他の人のことはできない。
- ・この意見が、今後、県政等にどのような形で反映するのかがわかりにくい。
- ・このことが風化されることなく、語り継がれることを望みます。
- ・まだ、震災の跡が見られるところがある。神戸では、更地が多く、人口が減っている。